

出来ませぬし、季節のいゝ時は一週一度位日を決めてして居りますが、教材の都合がありますが、寒くなれば致しませぬし、餘計疊つて居りますと致しませぬから、凡そ設備的には一回、本當の個單製作の時。

(倉橋) 共同製作—合複製作。(笑聲)

(坂内) 合複製作が多いかも知れませぬ。白狀致します。大きな合複製作は出来ませぬけれども、合複製作は考へ様によつては色々出来ますものですから、最後に合複製作にするにしても、或は何の子を見ても個單的にやつて居りますけれども大きな所に纏める様にやつて居ります。それに就てもこの頃の様に玩具屋さんをしようと言へば、毎日く紙細工をやつて居ります。さう云ふのも大きく一學期の終りに玩具屋に纏めます。後は七夕とかお雛様とか、年中行事に支配されます。

(倉橋) 土川先生の所では手技に重きをおいていらつしやいますが、所謂手技に重きを置くのも、手技が多いと云ふだけでなく、一層保育項目を系統付けた、システムティックにやつていらつしやる事と解して、何う云ふものを何

の位、云ふ配當は？

(土川) 配當？

(倉橋) 所謂共同製作の方で必然的に導き出す事によつても指導は出来ませんが、個單製作と云ふ意味から言つても、粘土製作價值と云ふものが特別に研究されて居ないから粘土製作を幼稚園ではうつちやつておく、と云ふ、これも問題になると思ひます。

○個々の子供として

(倉橋) 扱て色々して参りましたが、その配當に就て何處かにしよつちう、奥歯に挟つて居るが—私の蟲歯の中に小豆が一つ這入つて居る。家迄保存して歸らうかと思つて居りますが—所謂配當して見た所で劃一齊主義的に配當されて居るか何うかは別問題であります。今日のお話は全體幼稚園と云ふ保育そのことに於て何う配當したらいか、と云ふお話ですから其處の問題を徹底して置くこと、實に大事なものになつて来ると思ふ。それが旨く出来れば、

所謂先生の配當の教育の目的論ミ、個をきんな風によつて行くか、ミ云ふ生活形態の問題ミが其處で旨く調和して行くかも知れないと思ひますが、個の配當ミ云ふ事に就ては随分面倒な事です。個の配當は難しいのでありますが、確か及川さんが御自分の幼稚園で(笑聲)さう云ふ事をお試みになつた様でありますから、その時の話をして下さいませぬか。

(及川) あれは今年出た組でございますから大きい組でしたね。二年目の幼児に一年位して見たのでございます。何枚か表が溜つて居ります。未だ結末が付けてないのでございますが。毎日日誌の代りに一人づゝの日誌をつけますが、言葉で書くのは面倒でございますから符牒でやりました。それを纏めておけば今日何か御参考になつたかも知れませぬ。

(倉橋) お纏めになるミ結論が出て又別に非常にいゝお話が承る事が出来る。今は未だ個の配當ミ云ふ事は、しりの問題だと思ひますが、それを餘程書き通したミ云ふのですか。

(及川) 何うしても私は堀先生や土川先生の方の様にさせませんで、手技を澤山して居ります。さう云ふ様に傾いて居つたと思ひますけれども、男の子なんかとても嫌がる子供もございませぬし、何れだけ構はないで置いて置かうか、ミ云ふ様な一あの組が大變亂暴な子供が多かつたせいもございませぬけれどもさう云ふ風な子供はちつとも何にもしない様な日が、幾日も續く。それを見てびつくりして、

(倉橋) 實にびつくりして。(笑聲)

(及川) その子供をつれて来て殆ど手傳つてやつて興味を湧させようとして、拵へてやつたりいたしました。それが動機であんなものを作り出したのでありますから、その作つたそれを、

(倉橋) それをやつて御覽になつたやり方を。

(及川) それは出席簿の様につつま横に子供の名を書きまして、縦に日を書いておいて、唱歌遊戯お話、さう云ふものは赤で一吋印しをつけ、印しのついて居る時は唱歌をした。皆なしな日もございますから、した子の下に

印しをつけ、印しのついて居る子でその子が皆な致した時は皆な何の子にも印しをつけて。それで遊戯なんかは新しいのをした時は遊戯の名だけ書いておきまして、一人の子供の所に書いておきました。手技だけは銘々進度も違つたり、材料も違ひますからそれだけは記しておきました。

(倉橋) 全體的結論を纏めておらぬさうですが、ずつみやつていらしつて初めびつくりなさつた如く、實にびつくりする様な個の差が出ますか。

(及川) 自分では今迄唯の保育日誌をつけて居りました時には何々製作を書きましても、誰が何をした云ふ事は解らない。特に嫌ひなもの、何にもしない様な子は一人か二人、覚えて居りますが、したのかしないのか解らないもやくくした子供が何時も残されて行く。中間の者が多いのでございますね。好きでてもする子供を嫌ひで砂場ばかりで遊んで居る様な子は普通の保育日誌でも、つけなくても長く記憶に残つて居りますが、ちつちとつかない様な、何時の間にか逃げて行く様な子供、さう云ふ子供の進度な

んかもよく解る。

(倉橋) 伺つて居るに所謂子供に何う云ふ差が出るか。びつくりしたから、卒倒なさつたから(笑聲)、差を個性的に明かにしよう云ふだけで、科學的目的ではなくて、すぐ片寄らない様にしよう云ふ教育的な目的でお作りになつたのですから、あれをつけようとするのが。成可く片寄らない様になさつた結果が變つて出て居るのですね。

(及川) 好きのはい、んでございます。消極的になるのでございますが。

(倉橋) これは一つ、私力を入れて申上げますが、これからも大いなる研究問題ではないかと思ふのです。さあ幼稚園としては何う云ふ形、研究問題としますか。私達がよく聞かれる話では保育項目の夫々に對する子供の型を言ひますが、傾き云ふものが違つて居つて、ある保育項目に非常に片寄る子さうでない子がある。中には全然したくない。それをさせれば幼稚園に行かぬ、云ふ子供がある。先程先生の方の御都合次第です。斯う云ふ問題に觸れて來るに子供の方にさう云つた事が事實の上に表はれて來

る。事實の上に出て来るミ云ふ事は、先生の個性心理學に基くものであるか、先生の指導宜しきを得ないか、却つて教育の缺陷によるものか、それは暫く別問題であります。

其處でそれらの事で多くの幼稚園の先生は、兎に角困り抜いてその子だけに全力を其處に注がなければならぬミ云ふ様な、いミ惱しく考へる。唯さう云ふ實際問題のみならず家庭の方でそんな話を言つて來ます場合は親は親馬鹿か何か知りませぬが、片寄る所にその子の價値を認識しようとする。さう云ふ様に天才だミ見て居る。子供が天才であるか何うか解りませぬが、其處で傾く子ミ、これも程度により事情により色々あるでせうが、それに對する全體的の教育的：：小學校に於ては一層問題になつて來るミ思ふ。併し小學校も幼稚園も原則ミして、幼稚園ミして考へなければならぬ事がありませうし、其處を堀さんに伺つて……。

(堀) それは困つたな。皆さんの實際家に聞き度いミ思つて居た。さう云ふ場合何うなさるか。

(倉橋) 何うすべきかに就て、大體でも。

(堀) 我々聞く所では所謂無理をしてはいかぬのでせ

う。所謂保育に於て無理をするのはよくないのかミ思ふ。

(水野) 私嫌いやな事でもさせなくてはいけないミ思ひます。嫌な事をさせないミこれから社會に出ますミ、嫌な事が澤山ありますから嫌な事をしないで居りますミ、人後に落ちて了ふ。嫌な事を嫌でもさせるのがいミ思つて居ります。

(倉橋) 御同感です。けれどもそれは訓練論的立場に於てのお話で、その保育項目の持つ幼稚園の訓練もありませうけれどもその保育項目の一つミが持つ效果に於てどうするか。好き嫌ひを勝手にする、我儘を許すか許さぬかミ云ふ事でなく、教育ミしても其處に問題が起つて來るのではないか。誰も我儘者ミしては、積極的に同意する人はないミ思ひますが。

(水野) 一寸斯う云ふ事がございます。その子供が手技が、自分がその嫌いやなんでございます。嫌だから嫌きらひだしするからさせない。他の子供は作つたものを持つて歸る、その子は持つて歸らないミ、先生は家の子供に教へて呉れないミ云ふ御不満が出た事がございました。

(倉橋) 遊びの嫌ひな子供、サークルに這入らぬ子供、

これは遊戯ミ云ふものが一種の、これ個單遊戯、遊戯の方は個單でせうけれども、一人踊りなんかいでせう。一人談話、一人製作はあるでせうが。其處にその嫌ひな子供を入れる、その遊戯が旨いかぬとか、遊戯が旨く行かぬ爲に他の子供に及ぼす保育項目ミしての保育効果を完成せしめない、ミ云ふ事に於て、御心配になつて居らつしやる。

その子を入れ度いミ非常に骨が折れる、ミ云ふお話があつたら、それで私ならば優れたる技倆をもつてその嫌ひな子供を遊戯を好きにして見せる、ミ確信をもつてをりますが、これ、容易ならざる事だから、後日御質問が出るミして、

何處迄もその人の努力を豫想しないで、さうしなければいかぬ、ミ言つた所で概論にはなるけれども、その子供に對する答にはならない。概論は講義には言へるのですが、私に聞きに來た人に、その人が困り抜いて居る時に、「いや何うしてもやらなくちゃならぬ」ミ云ふミその人、泣き出しちやふ(笑聲)。「それはまあ、仕方がない。さうしておいて大勢の子供の方に遊戯ミしての効果を充分にしてやつたら

いゝでせうから」ミ何時でも逃げておく。

(堀) 其處が矢張り。小學校の教課目ミ違ふ所でせう。保育項目ミ云ふものが、時間數も決めてないし、これだけミ云ふ程度も言はない様に、中の種類も喧しく言はない。それで劃一に是非これだけやらなくてはならぬ、ミ云ふ事を要求する事も出来ないし、する必要もないじやないんですか。僕はさう云ふ風に解釋して居る。

(坂内) 子供の習慣で初め幼稚園の生活に這入つた習慣で違つて。

(倉橋) 大分おそくなりました。堀さんのお話を聞いて安心して寢ようじやありませんか(笑聲)。さうも大變いろいろ有難うございました。後は御都合で御ゆつくり。

(以上・文責在編輯部)

何だかまだ伺ひ足りない様な氣持で、けれどもいろいろと心身に榮養を、研究のヒントを、澤山にあたへられて、満足な心持で散會いたしましたのは午後九時も大分すぎた頃でございました。